



電友会四国連合会報

第 7 号

74. 7

目 次

電友会の皆様へ	四国電気通信局長	二
電信電話拡充計画について	四国電気通信局 文書広報課	三
電電公社の保養所が利用できる		二
電退連の総会が開かれた		三
計 報		四
年金は九月にあがる		四
電友会四国連合会役員会開催		四
南予在住者懇談会開催		四
会員バッジができた		五
新入会員紹介		五
長寿漫筆	猪谷嘉夫	六
沖繩の旅	藤田基孝	七
表紙のことば	莊野孝	八
高野山	豊崎二三男	八
子規の足跡	高橋林二郎	九
お彼岸とお墓	浦辺慎悟	一〇
田村忠利氏をしのぶ	永井佐加一	一一
会員消息		一二
俳 句		一五
短 歌		一六

電友会の皆様へ

四国電気通信局長

鈴木 清



盛夏の季節となりましたが、四国電友会の皆様にはますます御健勝にわたられ、ゆうゆう自適の生活を、あるいは第二の職場においてお元気で御活躍されていることと存じます。

私は今年一月に四国電気通信局長を命ぜられました鈴木でございます。既に御承知の方が多いと思いますが、かつて昭和四十五年の一年間、自然に恵まれた人情豊かな当地にお世話になり、その後も限らない愛着を抱いていた懐かしい四国で、再び仕事ができますことを、まことに嬉しく感謝の気持ちでいっぱいあります。

四国の退職者の会は、昭和三十七年ごろ各県ごとに結成され、昭和四十三年には電友会四国連合会の発足をみて、さらに昭和四十五年には電電公社退職者団体連合会の全国組織に加盟され、今では四国の会員数も八〇〇人の多きに及び、お互いが連絡を密にされ親睦を深められるなど充実した活動をなされているとお聞きしていますが、私たち後輩にとつてまことに喜ばしいことであり、ますます会の御発展を念願するものであります。

お陰をもちまして管内の電気通信事業は各県の政治、経済面の伸展や県民各位の生活文化の伸長を基盤として、昭和四十八年度末の加入電話は、約八十二万七千加入となり、私が前回在任していた三年前の四十七万に比較し、七十六パーセントの伸びをみせ、そのサービスは格段と向上し、急速に発展を続けております。又、高度成長の波に乗り物質的な豊かさが実現された反面、いろいろなひずみも発生しております。石油危機に象徴されるように、エネルギー資源問題を始め公害、物価の高騰など、ますます深刻化する社会的諸問題をかかえて、政治、経済、社会面に複雑な変化をもたらしてきております。

このことが地域経済に反映し電気通信事業にも影響がでてきています。

又、今後の動向としては、高度福祉社会の充実に力が注がれる一方、自然の保護、環境保全の要請が一段と強まってきたことでしょう。

この様な社会活動が複雑化するなかで、電気通信事業の果す社会的役割はますます増大してまいります。私たちは、これら複雑多岐にわたる社会的困難性を克服し、事態の推移を適確に捉え、四国の実情に即した電気通信サービスの発展に尽したいと思っています。

電友会の皆様は名実ともに半生を電気通信事業に捧げてこられた方たちばかりで公社の最も良き理解者でございます。

私は地域社会の理解の上になつて事業の運営を円滑に推進したいと考えていますので、できるだけ機会を捉えて皆様にお逢いし、近況をお聞かせいただくとともに、公社の動向も知っていただき公社の経営やサービスについての御高説も贈りたく思っていますので

この上とも御指導御鞭撻の程よろしくお願いいたします。
最後に先輩の皆様が日々御健康であることと、会の御発展をお祈りいたします。



電電公社の保養所が

利用できる

退職者も在職者と同じ条件で電電公社の保養所が利用できることになりました。

一 利用できるかた

公社退職者並びにその家族で、部内医療機関の受診券を受けているかた、又は交付を受けることができるかた。

二 利用方法

利用申込書（往復はがきでも可）に部内医療機関の受診券番号（年金証書記号番号でも可）を記載すること。

三 利用料金

公社在職者と同じ料金です。一泊二食茶菓も含めて一、五〇〇円少々です。

四 全国保養所一覧表

合員名簿の一二三頁に掲載してあります。

電信電話

拡充計画について

通信局文書広報課

昭和四九年度の四国における電信電話設備
拡充計画の概要は次のとおりです。

なお、建設投資額は約四二四億円です。

◎一般加入電話

一二五、〇〇〇（四八年度一三〇、〇〇〇）

県別内訳 愛媛 四九、五〇〇

香川 三二、八〇〇

徳島 二〇、六〇〇

高知 二二、一〇〇

三年連続して一〇万以上の架設となつて
いますが、政府の総需要抑制政策の関連も
あり昨年より五〇〇〇の減となっています。

◎ビル電話

すべての需要に応ずる

◎地域集団電話

すべての需要に応ずる

一般加入電話、ビル電話、地域集団電話
の増設により、四九年度末の加入電話数は
約九五万となり、一〇〇人当りの普及率は
二四個となる見込です。

◎公衆電話

一、三〇三個（四八年度一、六一九）

この結果、四九年度末の公衆電話数は、
約二二、二〇〇個となります。

◎PBX

公社設置を希望するものはすべて応ずる
こととしており、内線電話機六〇〇〇個の

販売を見込んでいます。

◎テレックス

二八〇（四八年度 三〇〇）

◎プッシュホン

一一、〇〇〇（四八年度 一〇、〇〇〇）

本年度は、観音寺市、池田町、中村市な
ど新たに五市一六町に販売地域を拡大しま
す。

◎ホームテレホン、ビジネスホン、親子電話

五一、一〇〇（四八年度 四三、六〇〇）

◎データ通信

○販売在庫管理サービスを松山につづいて
高松でもサービスを開始することとして
おり、三〇端末の販売を予定しています。
○科学技術計算サービスを松山・高松でサ
ービス開始することとしており、一二端
末の販売を予定しています。

◎ポケットベル

松山 二、五〇〇 高松 三、〇〇〇

◎ダイヤル化

次の二九局がサービスを開始します。

愛媛 目黒、関前、三間、三浦、柳谷

中津、小田、睦月、瀬戸、大瀬

香川 豊島、塩江、安原、栗島

徳島 市場、御所、平谷、加茂、三野

由岐、八幡、海川、三加茂

高知 大月、月灘、西泊、葉山、葉山西

橋原

この結果、四九年度末には四国管内の半
数以上の局がダイヤル式局となり、電話機
のダイヤル化率は約九八%となります。

電退連の総会が

開かれた

電電公社退職者団体連合会の総会が、五月
二一日東京の通信協会集會室で開催され、当
会からは赤剝副会長が出席した。

昭和四八年度の事業報告、決算報告が承認
され、昭和四九年度の事業計画、収支予算が
審議決定された。

昭和四九年事業計画

本会は会員相互の連絡親交を密にし、電電
公社退職者の生活の安定、福祉の増進を図り、
あわせて電信電話事業に寄与せんとする会の
目的達成のため、本年度においては、特に下
記の施策の推進を図るものとする。

1 恩給、共済年金受給者の処遇改善に関
し、前年度に引き続き関係方面に陳情運
動を展開する。これがため必要あるとき
は僚友団体と緊密な連絡をとる。

2 公社直営保養所のほか、職員クラブお
よび電信電話会館の利用条件の改善を要
望する。

3 退職者に対する処遇に関し、下記事項
について要望する。

a 永年勤続の退職者の死亡時における
公社総裁よりの弔電をお願いする。

d 生存者叙勲の範囲の拡大

4 殉職者および戦没者の全国慰霊祭の実
現を図る。

計 報

昨年の十月以降、つぎの方々が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	死亡年月	行 年	所属の会
田村 忠利	48 11 11	七三才	愛媛
中野 昇	48 12 22	六九	"
山内 幸十郎	48 12 23	五九	"
得内 照道	49 6 20	七六	"
細井 光太郎	49 3 18	八一	香川
谷 森 太	49 5 3	七一	"
登 豊 太郎	49 5 5	七〇	"
黒田 英一	49 6 4	六四	"
栗田 満寿吉	48 7 4	七一	徳島
庄野 力雄	48 12 28	六九	"
坂野 三郎	49 2 6	六一	"
高津 国栄	49 12 2	七五	高知

年金は九月にあがる

一五、三%、二三、八%

本年度の恩給、共済年金の改正法案が国会の終盤に成立しました。われわれの年金がどうなるかは、通信局にもまだわかっていませんが、新聞報道などに現れたものは、大体つぎのとおりです。

- 1 公務員給与の上昇（四八年度）による改善分として一五、三%の増額
- 2 公務員給与水準と恩給水準との格差一

四、七%を二年計画で補填する分として七、三五%の増額（この増加率は退職年次によって差異がある）

この1と2を併せて、昭和三四年度以前に退職した人の増加率は二三、八%となる。（ $1.53 \times 1.0738 = 1.238$ ）三五年以降の退職者の増加率は別表のとおりです。

3 普通恩給の最低保障額がつぎのとおり倍増改定されました。

- (1) 六五才以上 三二一、六〇〇円
 - (2) 六五才未満 二四一、二〇〇円
- 4 本年の改定実施期は九月一日にくりあげられます。

① 退職年度	② 増 額 率	③ 給与水準 増額率
昭和	%	%
34	23.8	14.66
35	20.6	9.16
36	20.2	8.45
37	19.7	7.55
38	19.5	7.25
39	18.6	5.78
40	18.8	5.98
41	18.3	5.18
42	17.5	3.90
43	17.0	2.93
44	16.3	1.72
45	15.3	0
46	15.3	0
47	15.3	0
48	0	0

(注)

- 1 これは退職公務員新聞に掲載された共済年金改定の一例である。各共済組合によって多少の差が出るかも知れない。
- 2 増が率②はつぎの算式により算出されている。
 $1.53 \times (1 + \text{増額率} \textcircled{3}) \times \text{率} \textcircled{2}$
- 3 三九年度、四〇年度の増額率が逆順のようになっているが、これは年次改定のアップ率によるもので、誤りではない。

電友会四国連合会

役員会開催

本年度第一回の役員会が、四月二日松山の通信局会議室で開かれた。

昭和四八年度の会務報告、会計報告、四九年度の事業計画、収支予算等の案を審議し、一部修正のうえ、連合会総会に提出することとなった。そのほか電退連総会に対する提案事項、四国連合会総会の開催について協議した。本年度の総会開催地は徳島になる見込みです。

南予在住者

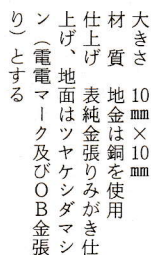
懇談会開催

昭和四十五年六月二十八日南予在住会員の希望で第一回懇談会を開いてから年々盛大となり、本年は四月十四日八幡浜市で第五回の会合を開いた。昨年宇和島市で会合したとき次回からはなるべく夫人同伴で出席しようとの申し合わせもあって、その旨呼びかけたが遺憾ながら夫人の出席は二名しかなかった。しかしながら男子は三〇名出席し、それに本年から地元報話局の女子退職者にも出席案内をしたところ十六名の参加あり、特に地元から八幡浜電報電話局長、次長、話運課長が出席され最近の公社事業についての説明を受けるとともに現職者との懇談の場も合わせて持つことができ、縦横のつながりを一層緊密にして、盛会裡に有意義な懇談会を終了した。

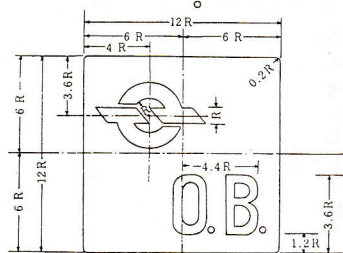
(八幡浜 玉井利満記)

新入會員 紹介

氏 名 浅川 祝志 度 49 松山
所 退 職 時 属 の 年 次 退 職 住 所



した。これに胸につけて、わが退職者の会の発展を期したいものです。



- 1 地色はうすあおみどり、電電マークとO.B.は黄色
- 2 会旗には白地に、このマークを中央に表示する。会名は会旗の下に黒字で表示する。

電電公社退職者団体の統一マークを制定するよう、各地方の会から要望が出て、在京三団体で考究さ

[illegible]

長寿漫筆 (二)

高松猪谷 嘉夫

快眠・快便 睡眠が充分とれば排便も順調であれば気分も自ら爽やかになる。これは何も老人に限ったことではないが、歳をとれば寝付きは悪くなるし朝は早くから目がさめて若い者に嫌われる。それに稍々もすれば便秘を起しがちになる。この対策として最初に両方に関連する入浴のことから始める。

入浴 入浴は皮膚を清潔にするだけでなく、血管を拡大するので血行もよくなり気分的にゆったりとする。それだから浴槽の中で手拭をしめして頭にのせ、浪曲の一曲さりを唸るのも自然の発露である。入浴にはこうした利点がある反面かなり疲労を伴うのである。従って体が弱っておるときは入浴をさせないことで判る。私は熱い湯は好まない。普通の人より少々ぬる目の湯にゆっくりつかることにしておる。唯つかっておるだけでは能がないと考えて、先づ第一に腹部に両手をあてて軽く腹の皮をもむこと五〇回、これは腹部には沢山の細い血管が通っておるので、これを刺激して血行をよくして胃腸の活動を助けるばかりでなく、特に腸の融動運動を促すためでもある。即ち消化された食物を腸で吸収されてその残滓を直腸に送り出す蠕動作用が活発に行われないと便秘を起すことになる。次は両足を開いて少し反身になって両手指を肛門の周囲にあててこれまた五〇回ばかり速くもむ。これは痔疾の予防である。肛門附近も

細い血管のターミナルになっておるので、常に座るばかり又は腰かけるばかりしておれば比処を圧迫するし或いは永く冷えたりすれば血行が悪くなり更にうっ血して痔疾になる。それに排便に無理をして裂傷ができると両々相待って嫌な病の一つである痔疾になる。私も若い頃少々痔の気配があったが、このような予防方法と排便に気をつけておるので痔にはならなかった。ホンの一寸した心掛けて、痛い思いも不愉快な目もせず亦排便に苦心することもなくて過しておる。

やはり浴槽の中で行事だが、湯の中で両手首を左右、上下に速いスピードで振ったり廻したりする。これは指先の血行をよくして高血圧を防ぐ方法である。湯の中ですれば空気中で行うのに比べて数倍の力が必要となり、遠心力も強く働くと考えてのため、昔から手品師は指先を巧妙に動かすので中風にならないと、亦老人が用のないときは胡桃の種の乾したものを手指にいれてもんでおれば中風除けになると言われておるが、一理も二理もあることが了解されるものと思う。猶ついでのこと乍ら風呂からあがって体をぬぐうときは水で冷したタオルを用いるのがよい。入浴すれば毛穴が拡大する、これを早く閉ざすようにしないといけない。殊に寒い時は折角温ったものが発散して湯ざめを早めることになるからである。毛穴は体温の自動調節器で寒いときは固く閉じ、暖かくなれば開くし、暑くなれば汗を出して常に体温を一定に保つようにする。それに毛穴を開いたままでおると肌が荒れる。肌荒れを気にする女の人は高価なクリームに気を配るより、こうした事に

思いを致せば、金もかけずに何時までも美しく過せることができるのに、湯ざめをしないようにすれば風呂から上ったとき、手桶に冷水をためて足首までつけて二〇―三〇秒して充分ふきとれば結構防げるし、また冬足先きの冷える人もこのようなことをすれば床に入って足先から暖かくなる。

前置きが少々長くなったが本論の快眠のことに移るが、眠るということは実に大事なことである。人間は食べ不足より睡眠不足で参ってしまう。睡眠を充分とれば毎日の重労働にも堪えられる。睡眠は疲労の回復上欠くことができない。私は寝付きもよく熟睡する方である。唯時折夜麻雀をして敗れたときとか、酒を飲んだが床に就く頃に酔がさめた時などは、頭が冴えて中々寝つかれないことがある。寝床は暖いより少々涼しい位がよい。私は子供の時から敷は煎餅布団で過してきたので、時折旅行をして旅館で厚い敷布団を重ねたり、エバソフトを敷かれたりすると寝附かれなないので薄い敷一枚にする。体の為にはこれがよいのである。と言うことは深々とした敷布団では背骨が安定せず常に上半身を支える活動をしなければならぬので心身が完全に休息状態にならないし、時には背骨が曲りかねないことになる。亦掛布団も寒くない程度がよい。肩を冷すと肩こりの原因になる。寒い地方では旅館の掛布団には顔のあたる部分を半円形にくりぬいて顔を出しても布団の両端が肩にかかるようになっておる。また家によつては幅三〇―三〇〇厘長さ八〇―九〇〇厘で綿を入れた肩布団を出すところもある。これは寒い時の肩口の冷えるのを防ぐにはもってこいの物

である。寝附きをよくして熟睡するには頭部を冷い目にして足部を暖かくする所謂頭寒足熱方式をとらなければならない。即ち頭部を冷くして血行を低下させる。頭部を暖かくすれば脳の活動が盛んになり雑念が生じ易く容易に寝附かれないからである。私は以前から四季を通じて藤で編んだ藤枕を使用しておく。一時は陶枕も使ったことがある。冬は少々寒いのが今では慣れて何ともない。従って旅先でパンヤ又はエバーソフトで頭が埋つてしまふような枕をくると寝にくいので座布団を二つ折りのものに取替える。最後に早く寝附くには体の力をぬいて緊張感から解放することが肝心であるが、さて体の力をぬくということがあるが力をぬくことは力を入れることより骨が折れる。それで私は床に入ったら直に両手両足をできるだけ伸して息を止めて数測(約一秒間隔)する、最初は二〇位であったが現在では四〇まで数える。息苦しくなつて止めた途端にヘトヘトになるが、止める直前に一段と手足を思い切り伸すが脇腹が二―三厘伸びるように思える。そして体の姿勢を最も楽な状態にすれば案外寝附きがよくなる。言うなれば反動を利用することである。

快 便 排泄すべきものを充分排泄したらその後の気分は実によいものである。特に排便はなおさらのことである。私は便秘をしないのでその不愉快さは知らない。子供の頃朝の食事後直に便所に行くことは行儀が悪いと叱かられたものだが、こんなことは一向気にすることはない。それに人間の排便機能には「胃大腸反射」という作用があって、胃に食物が入ると便意を催す生理作用がある。これはひどい下痢をしておるときに一番よく判る。湯茶を飲むか薬を飲むや即座に排便したくなるし、下痢時には排便することから納得できると思う。従って朝食後便意を催したら行儀などにこだわらず直に処理するように心掛ければ便秘にはならないであろう。冬の寒い時冷い便所で高血圧の人が便秘で二―三日滞つたものを排泄しようとして緊張したりすれば、脳出血を起すことも大いにあり得ることであるから、上記のような生理作用を心得て、チャンスを見逃さないことが便秘を防ぐ上で大切なことではないかと考えられる。

(以下は次号へ、食事のこと、酒と煙草、薬、老人向け対策、と続きます。)

沖 縄 の 旅 (二)

松山 藤田 基孝

その昔、剱舟を操り印度洋に進出して名を上げた漁師町の糸満市以南一帯が、沖縄戦跡国定公園である。

終戦後引取手なく散乱する遺体を集め埋葬した無名戦士の墓が魂魄の塔で、兵と住民合せ三万五千柱と言われる。

摩文仁山を海岸に下ると原生林に覆われた断崖に行き詰る、比処に追い詰められし数多の兵等が眼前の怒濤に遮られて自爆したという、立木に巻付く野生の朝顔が美しい。

一段高き台地に大きな自然石を横たえ愛媛の塔と深く刻まれてあり、その前で息子の位牌を地にすりつけて泣き伏す松山の娘は見る

も哀れであった。

岩山の突端には黎明の塔あり、当時最高指揮官牛島中将と参謀長を祀つてある、眼下に広がる緑の一隅には両将自決の洞窟が淋し気に望まれた。

引返したバスは首里の守礼門に着き、色あざやかな紅型衣装の美人が眼につく、バスガイドに習った沖縄言葉を試みた「ウンジョーイツベー、チユラ、カーギ」と、効果靚面にして私は忽ち美女の虜になり、私の古首に赤きレイが掛けられ、驚く私に容赦なく美女は寄り添って微笑むのであった、「ハイ良く撮れました」と横から男が手を出し写真代を請求されて、妙な一巻の終り。

紅型工房、泡盛工場、壺屋町には行く暇なく、博物館で弾痕も生々しい梵鐘や古き沖縄文化を知る数多くの陳列物を見て回り、白き珊瑚を敷き結めた庭に美しく垂れ咲く八重桜に逢い、青葉の伸びし椰子の実を飾る宿に着く、夕食に少し間があるので私は独り地図を頼りに夫婦岩を見に行く。

川裾に茸形の大きな岩が幾つか立ち、又穴の開いた見事な岩ありて子供等が遊んで居た、通りがかりの娘は一つの悲恋物語を私に話してくれた。

四日目の朝、出発間際に激しき驟雨ありて度胆を抜かれ、今日も十六台のバスを連ねて西海岸を北上する、敵軍上陸の地は珊瑚礁の遠浅で美しい浜辺である。大きな尾翼が塔の如く並ぶ嘉手納飛行場を右に見てバスは山中を通過、民謡の谷茶前を経て恩納に下車、木麻黄の繁りをくぐり、密生するアダンを分け登ると奇岩の間に怒濤逆巻く海が見えた、こ

れより左方に広がる台地が万座毛で、比処の景観が一番素張らしかった。

恩納から伊武部を経て世富慶の先が名護市、国道の真中に樹冠を呈し、逞しき気根を無数に垂らして繁る樹令三百年というヒンブンガジュマルの根本には三府竜脈碑が建つ、名護を中心に遷都説がうわさされたのを封じる為に首里王府が出した宣言文で、約二百年前の碑という。

東岸の辺野古、惣慶、金武を過ぎコザ市に入る、コザは外人街で横文字ばかりの店を珍らし氣にのぞいて回る。

夕刻、料亭「那覇」でさよならパーティが開かれた、紅型衣装の艶やかな舞姫による典雅な宮廷舞踊と野趣豊かな庶民の踊りに尽きぬ名残を惜しみつつ港へ出る。

税関吏に買物の点検を受けて戻り税を受取る、洋酒類が半額以下で買えたのは嬉しかった。波高き船旅は往路同様楽ではなく、二夜を船中に過した私は六日目の朝恙なく松山港に帰着、この間にできた百首程の短歌が私にとって大きな収穫であった。

表紙のことば

莊 野 丹 秀 (孝)

夏の風物詩は螢でしょう。

私が松山にいたころは、道後の夕宵のせせらぎの水の上を、螢がすいすい飛んでいた。遠く過去りし日の懐しい思出の一コマ、そんなことを考えつつ画いて見ました。

高 野 山

徳島 豊崎 一二三男

東京からの帰途少し静かなところと考えて高野山へ参拝する。四十五年ぶりのお山であった。私が前に来た時は南海電車が極楽橋まであった。それから山道をエッサ、エッサと登り女人堂へ着いたのを覚えている。ケープルのできたのは昭和の五・六年頃だったろうが現在のような超大型の立派なものは最近に改造されたものと思う、ケープルの終点が高野山駅となって電車と連絡して歩くところが無い。終点から奥の院までバスが通うようになって専用道路が女人堂までを接続している。奥の院までバスは二十分位で着いた。家族は今まで機会がなくて初めてのお参りなのでイメージが全く違ったようである。高野山と言へば物凄い深山幽谷を想像していたのだろう「ずいぶん街じゃないの?断崖絶壁の上にあるんだと思うていたのに」「高野と言ったって広いよ奥の院から一の橋まで参道を歩けば昔が残っているはずだよ」「それならいいんだけど。」バスの終点から右前方の山を切開いて広大な墓地が造成されている。景気の波に乗って高野へ墓地を持つブームが起きているのでなかるうか?

バスの終点に昔ながらの乗合馬車が止っていてお客を呼んでいた、間もなく鈴の音をひびかせながら楽しそうな顔のお客を大勢乗せて引返して行く、ハイヤーではあつけない、歩いてはクタビレル、ゆるゆるの見物ができる

馬車の速度が歓迎されるのだろう。終点近くの食堂兼みやげ物屋で少し早い昼食をとる。値段もさることながら食慾を増すようなメニューも見当たらないので親子丼を注文する、昔ながらの日本料理だし心配なかつたと思う、昔の大きなあやまりで、料理方法が最近では違っていた、あらかじめ造っておいた親子どんぶりを電子レンジで温めて出す方法である。ご飯と卵はまあまあ温いが親の方は噛んでみると中が冷たい、かしわの中まで温める時間は他のものとかかなり違いがあることを忘れているのだろう、文明の生んだ公害の一つかと思う。

奥の院燈籠堂は建替えられてあまり年数が経っていないのか新しい感じがするけれど霊域として幽厳なり、先祖代々の冥福も祈って手を合せた。御廟橋の下に清らかな流があり小さな魚が群っていた「ハエ」が多いようだが一二ひき「ヤマメ」もみられた、あまごだと言う人もいたが頭部が角ばっているように思う。奥の院から帰途は樹令千年を超える杉木立の参道を歩く両側の墓石は十万基といわれ最古のものは千年近く立っていることになる。昔時の武門その他いづれも権勢を誇った家柄を示したものである。時代は流れても今新しく建てられている墓碑は大企業商社の社長、重役又は企業の慰霊碑でPRもかねていると思われるものが目だつ。

リボンをつけた団体名を染抜いた輪けさをかけた一行が通る。時々案内人がハンドスピーカーで説明しているが戦前の説明とは違う、その当時は先頭に立つた案内人が大きな声と独特の節廻しで「左に見える石積五ッ並

び立てるは加賀の金沢前田利家公」などと次々と呼んでいた、今は節廻しなどなく案内もところどころだけのようである。

参道二キロの橋までをゆっくりと墓の文字などを時々読んで歩いた。高野は開祖弘法大師が真言宗であるが宗派に関係なく全国から霊地として墓石が建てられたことが判る。

菴堂は昔と変っていないが、案内人はいなかった、「筑前、筑後、肥前、肥後、大隅、薩摩の守護職で加藤左エ門重氏は」と代って絵の説明をして聞けた。菴堂の前に地藏院がある、高野五十一宿坊の中の一つで藤原時代に阿闍利尊海が建立し本尊地藏菩薩は数々の奇瑞を現した

采像はその

体内に経文が一ぱいつまっている木像で近く国宝指定となることである。地藏院住職を豊田高留さんという。昭和三十五年頃まで徳島にいられた方で那賀郡坂野町のお寺で修行のかたわら新聞記者として徳島市内に勤め電電公社へもよく記事をとりに見えられた。それ以来お目にかゝる機会もなかったがふと思いついてお訪ねしてみたところ幸にもご在院であった、もう十三、四年にもなるので少しは変られたが相変らず童顔で若さに満ちていた。徳島から高野山大学へ進み大学院を専攻してそのまゝ大学に残っていたが国内留学として東京へ二年研修を命ぜられその後母校の教授として六年を経た時、再び研修のためアメリカへ一年派遣された、帰朝後は高野山大学で教鞭をとって最近までこられたが寺院の役職をいろいろ引受けることとなり大学を退いて専念しているとの話であった、豊田住職は自分で自動車を運転して金剛峰寺、伽藍、

大塔の鐘、大会堂、霊宝館、六時の鐘などを案内して詳しい説明をくださり、特に奥書院など平常拝観を許されないとところまで特別の計いをいただいた。お山は変ったが豊田さんの変らぬ厚情は大師の深いめぐみを私に教えたのであろうか、有難いことである。

子規の足跡

松山高橋 林二郎

正岡子規の「散策集」によると子規が寄寓先の夏目漱石居「愚陀仏庵」を出て親戚の大原、藤野の両家に立寄り、そこから中の川の蓮福寺、雲林先生村居の跡、さらに薬師寺などを吟行したのは、明治二十八年一〇月二日の午さがりであった。晩秋の一日、私は「散策集」をふところ、七十年前、病身の子規が散策したこのかいわいを逍遙した。伊予鉄松山市駅で電車を下り、まず蓮福寺を尋ねた。

蓮福寺は本願寺派の真宗寺であるが、戦災に遭い、昔のおもかげは求むべくもないが、境内に野間隻柳の墓があった。隻柳は俳句を子規に学び、村上露月、柳原極堂らとともに地方俳壇に重きをなした。なお「散策集」の解説によると、子規の「真宗の伽藍いかめし稲の花」の句はこの寺で詠んだものとされているが、これについては後段で述べることとする。

蓮福寺を出て八軒家を過ぎ、伊予鉄横河原線の線路に沿って東に進むと、料亭「亀乃井」の前に出る。軒下に防火用水と覚しき巨大な

水甕が据えてあり、甕の正面に

正岡子規散策の跡

正岡子規の漢詩の師浦屋雲林の住宅跡前庭内に清冽な冷泉のわく池あり、現在

「料亭亀乃井」となった

花木檜雲林先生恙なきや

汽車道をありければ近し稲の花

子規

と書いてある。また、先年松山市が刊行した「松山市誌」に雲林先生の小伝が、次の如く誌されている。

浦屋雲林

天保十一年七月一日、湊町四丁目に生れる。松山藩士浦屋寛親の長男、名は寛制、通称登蔵。日下伯巖、高橋復斉に漢学を学び、詩文をよくし書に巧みであった。藩に仕え小姓役から祐筆に進んだが、維新後は藤原村に私塾桃源堂を開いて子弟の教育に当った。子規、鳴雪らも漢学の教を受けたといわれる。詩作数千首に及び「雲林遺稿」がある。明治三十一年一〇月一五日、五九。西山宝塔寺に墓がある。

余談になるが、戦前の「亀乃井」は現在の建物に数倍する堂々たる構えであった。当時、二番町の料亭「梅の家」は政友会、この「亀乃井」は民政党の牙城であった。いきおい両者の対抗意識が強く、座敷をとりもつ芸妓はもとより、出入りの魚屋にいたるまで政友、民政の二派に分れて拮抗した。いうなれば政党はなやかな時代であった。

さて「雲林先生村居の跡」から鉄道線路を横切り柳井町に出、ここから泉町の薬師寺に向う。薬師寺は松山二一大師霊場第一九番の

札所で、瑠璃光山東光院薬師寺というのが正しい寺号であるが、一般からは「お薬師さん」の名で親しまれている。境内のひよんの木はいすの木（松山市指定文化財）で、いまでも当時のまま繁茂し、樹下に子規の薬師二句の句碑が立っている。

我見しより久しきひよんの木実哉

寺清水西瓜も見えず秋老いぬ

子規

戦前までは薬師寺の南側に、石手川の伏流水が湧出する泉があった。泉町という町名はこのあたりに由来するのであろうか。当時は夏場になると夕涼みの客がここに集まり、泉で冷やした西瓜、そうめんなどをひさぐ売店などもあった。少年時代の私は父に伴われてここに遊んだ記憶がある。が、いまは跡形もなく埋立てられ、往時を偲ぶすべもない。薬師寺と道路をへだてて、松山刑務所の建物がある。最近、郊外の重信町に移転し、現在は廃墟になっているが、それでも見上げるような高塀から受ける感じは、決して明るいものではない。私は足早にこの地区を通り過ぎ、末広橋を渡って石手川の南堤に立った。すぐ目の前に、相向寺の墓が見えた。

相向寺は、このかいわいの古刹である。境内に銀杏の落葉が散り敷いて、住職らしい老僧が黙々として箸を動かしていた。私は老僧と会釈を交わし、庭前の句碑の前に立った。碑は自然石の見事なもので

真宗の伽藍いかめし稲の花

子規

と彫っており、かたわらの高札に次の説明が

あった。

この句は俳聖正岡子規が明治二五年初秋当相向寺に詣でて詠んだ句であって、その頃此の附近は人家なく一望の稲田であった又此の碑の文字は子規の書いたものを大きく彫刻したものである。（境内に子規の叔父拓川氏の墓がある。）

冒頭にも述べたように、散策集の解説によると、この句は蓮福寺で詠んだものとされているが、念のため帰宅後、手許にある子規全集の年譜を繰ってみると、明治二五年の条に次の記事が見える。

春、駒込より下谷上根岸八八番地に移る。夏帰省。

一〇月、大磯に月を賞す。箱根より修善寺を廻りて帰京。

とすると、子規は二五年の帰省の折、相向寺でこの句を詠み、三年後「散策集」に追記したのであろうか。私は、拓川居士の墓に一札し、寺を辞した。私にとってもたのしい半日の散策であった。

お彼岸とお墓

三本松 浦 辺 慎 悟

国鉄高德線丹生駅から徒歩で東南へ約十分大内町土居（元丹生町字土居）に「浄琳居士脇谷云々之墓」と読みとれる苔むした古いお墓が、小高い丘の森の中に立っている。そしてこの下にやすらいで居るお方こそは、南朝軍方の最後の総大将新田義貞の実弟脇屋義助の子義治その人なのである。では、どうしてこ

のような有名武将が、遠くへんぴな此地で生を終るに至ったかについて少々調べてみることにする。

湊川の合戦に縊くずれたとなった新田義貞は延元々々（建武三年。一三三六年）十月途中いくたの苦難はあったが、とにかく越前金崎城に入ることが出来た。そして此処を一応の拠点としたが、間もなく高師泰を大将とする足利軍の猛攻をうけて危機に陥り、義治の守る仙山城（そま山）と連絡し都合よくそこに移動した。幸い文武両道にたけた名将義治の協力で一時は勢力をばん回した義貞もついに藤島の戦で男盛りの三八才で南朝の大忠臣としての生涯を終った。だが此時義治は後日の再起を期して此処を落ち延び、その後鎌倉に出て従弟の新田義宗と共に兵を起したが、もろくも足利軍に敗れた。たび重なる敗戦の結果身も心も疲れたのか義治は義宗と共に応永四年伊予宇摩郡の豪族土居氏（南朝方といわれる）を頼って身を隠した。それから八年後に義宗は其地で病死し、年経るにつれ社会情勢も大きく推移したし心境にも変化があったらしく、とにかく義治は讃岐大内郡へ移住することを決意した。此地を選んだ理由は多分、かつて建武中興に失敗した護良親王が一時大内庄（現大内町、虎丸城跡を中心とした地域）に身を隠したこともあり、南朝方にゆかりの地と判断したからであろう。伊予を出る時は、みの笠の百生姿で応永十二年ここ丹生山にたどりついたという。一説に、脇屋義治は伊予で死んだとするものがあるが、とかく合戦に明け暮れた戦国武将のお墓がとんでもない所

に存在する例はまあある、例えば織田信長のお墓が全く見つからぬので長い間あれこれ問題にされていたが、最近高野山でそれらしいものが発見され、源義経の墓が北海道にもあるといわれている。まあ、それはさておき脇屋義治が丹生で死んだことについての裏づけは元家臣であった篠塚伊賀守という豪勇の誉れ高い武将（その娘は楠木正義の妻）が義治を頼って来住した記録がある。篠塚はその後隣村の福栄宇東山で百姓として永住し村民の信望ことのほか厚く、死後篠殿明神として祭られたなど三代物語りに見えているし、なお大川郡誌には義治は新田一族追討があまりにも厳しいので一子義長を連れて讃岐国丹生の長福寺に隠れて一時は土居氏を名のったことがあり云々と誌されている。

晩年の義治は、若き日に吉野その他の戦で多くの人々を殺した罪業を深く後悔し、あつく仏道を信仰、とくに観音堂（現在は高い石垣の上に広い荒地があり、大老楠木が天にそびえて僅かに昔のおもかげを残している。だがこの御本尊たる観音像は国宝に指定され東京美術館に保存されている筈）を建て朝夕礼拝し、天寿を完うしたのである。

その子孫は代々繁栄を続け四、五年前までは大きな古い屋敷が残っていたが現嫡子孫はその屋敷を整理し、東京都内で脇屋歯科医院を開業している。

次のお墓は、三本松駅から西へ徒歩七、八分で与田川橋の東たもと近くに文化財指定の「播州高砂城主梶原君諱景辰之墓」がある。梶原氏は鎌倉将軍源頼朝、義経の有名な武将で当時はとぶ鳥おとす権勢振りであったが頼

朝死後一年もたたぬ正治元年（一一九九年）いわゆる鎌倉御家人衆六十余人連名の追放状にあり、京都に向う途中景時は発見されて静岡県清見岡附近で最後をとげるがその子孫の梶原景辰は播州高砂城にいて、羽柴秀吉と戦い落城後、はじめ阿波に居たが、やがて讃岐引田浦（現在の引田町塩屋附近に小城を築いて居たとの説があるが記録は残っていない）に移住した。近隣である虎丸城主（現大内町水主標高三七三米の同名の城山）安富筑前守盛方と親交を結ぶようになった。

ところが、天正十一年土佐の長曾我部元親軍が来襲し虎丸城を攻略することになったのであるが、その時運わるく盛方、景辰等は共に雨滝城に集合して会議を開いていた。多分元親軍の来攻を予期し、その対策を密議していたのだろう。急報に接した景辰は、わざと迂回して源平屋島合戦のとき阿波から義経が通過した、ゆかりの街道を選んで栗毛の愛馬にむち打ったのである。城を目前にする前記と田川端にさしかかれば、万事窮すであたり一面元親軍勢がひしめいて居た。死を覚悟した景辰はむらがる雑兵どもには目もくれず敵中深く突入し元親を求めて奮戦したが、まもなく馬もろ共に射られて戦死した。その武勇振りを聞いた元親は特と命じて、甲冑も解かず勇将の姿そのままに馬もろとも、ねんごろに現在の地に葬り、自ら筆をとって墓標に「梶原景辰之墓」と記し、しばしの間合掌して小聲で何かつぶやいて居たという。

現存の墓は文化二年春三月、八世孫讃高松梶原景允修復したと裏側に記入されている。現存の子孫について調べてたところ、前大内町

長川畑明氏の話によれば「戦前は高松に住み墓参の都度役場を訪れた当時陸軍中佐であったが、その後様子がわからない」とのことである。

次は敏達天皇六世井手左大臣橘諸兄公後胤のお墓について書きたいと思ったが、あまり長くなるので後日の機会に譲ることにする。

故田村忠利氏をしのぶ

松 山 永井佐加一

大正十年のことです、広島通信局管内であった松山担当技術官駐在局所へ私は自己人夫という職名で採用され、就職と同時に大洲市内の加入者増設工事に従事致しました。その時大洲ではじめて田村さんに会ったのです。

田村さんは体は小さい方でしたが、実にこまめによく動く方でした。又人にすぐれて手先がきょうで、鋸の目立、捻子錐の先のやすりかけ等、本職も及ばぬ手つきでやっておりました。器具の手入れや物品の整理等は見習うべき点がたくさんありました。

私が中山局駐在の当時、田村さんが内子局駐在であって、地理的の関係もありますが、その後も何度となく、田村さんが主任でやっておられる工事に従事させて頂きましたが、仕事に熱心で、さきにものべましたように、よくこまめに動き、主任みずから工事に対し忠実に働いたことは、我々線路部門の者が誰でも知っている処であると思います。

いかに生あるものは必ず滅すとはいえ、誠に無情の限りであります。田村さんの生涯の一端をのべ、心から冥福をお祈りいたします。

会員消息

土佐だより(江戸の仇記)

国弘恒好さん

電柱敷地交渉の重任を帯びて山間僻地を歩いていると、土地のねえさん婆さんが自動車運転して狭い道をわがもの顔で追越し行違い、その度に道の端へ避難させられる。手拭をかぶったあんな婆さんでも運転するのにオレにもやれぬことはあるまいと発心、それから自動車学校に通い、勉強之つとめた結果一パツで見事免許皆伝。目下雨の日は濡れなくてよいとひたすら電電公社に協力中。

下元三男さん

天気の良い日に電話をかけると、大いの場合留守。何処か仕事に行っているかと思えば、大いの場合釣り。恐らく興津や佐賀の磯で足跡を残さないところはあるまい。但し戦果の程は不明であるが、土佐湾にまだ魚が沢山居る所から判断すると自ら戦果は明らかであろうである。ところがその留守を守る奥さんは皐月作りの名人。いつもしょんぼり帰るご主人を花で迎えようという心づくし。全く花のような美しい家庭である。

栄技義実さん

この人も釣りにかけては人後に落ちない。海でよし川でよしおよそ魚の居る所なら山でもという感じ。アユの川開きの日は勿論家に

は居ない。雨が降ろうと火が降ろうと天狗には関係ないという有様。戦果についてはこれもつまびらかでないが、その昔の大本営発表と似たりよったりと思へば間違いあるまい。しかし沖釣の場合は、あの大きいクーラーは伊達には重くて持てまいから若干信頼がもてる。

島内秀鹿さん

春は皐月、秋は菊と数へ切れぬ鉢を並べて優雅に鉢作りの名手。筆者如き素人には分らないが、菊作りは、土の用意から挿し芽、芽つみなどと花に備えて年中業しめると云う。道理で何時逢うても至って明るい。閑のある時は高知の敵ならざる基仇の山本秀吉さんを訪ね白黒を争い、日の暮れるを知らぬという噂さ、察するところ勝ったり負けたりという所か。白石はどなたが持つか聞きもらしたの

深田正義さん

昨年十月二日交通事故にあい朝倉の国立病院に入院、以来加療中であるが、何分内出血等の悪条件が重なり今だ全治に至らず一進一退の様子。この間二、三回自宅療養の試みもとられたが、いつも高熱に悩まされるようで、やむなくまた病院に復帰療養に努めている。最近身の廻りはぼつぼつご自分で行えるようになっていくが、さりとて油断は出来ない状態のようである。なお奥さんも一緒に事故にあい同病院に入院、その後事故直接の原因によるものは殆んど治癒している趣きであるが、種種の余病を併発し鋭意加療中である。

が、今のところ樂觀を許さぬ状態のようである。ご夫婦の一日も早くご全快ご退院されんことを心からお祈りしている。

(四九・五・三一記)

一 木野戸繁行 五七才

久万報話局を最後に昭和四十六年退職。定年まではと公社に未練は十分あったが母がなくなつたので思いきつて公社を退職妻と二人で有限会社木野戸商店を経営している。幸い元気で医者には無縁の生活をしている。

三 定年前であつただけに、公社にいたらと思う心が何処かで自分を動かすのか、なにくそと頑張つて社会奉仕につとめている。

下笠居地区連合自治会長を初めとして新高松空港建設反対の旗をあげて地区空港対策委員長、高松坂出有料道路地区対策委員長、小学校建設委員長、民生委員推せん準備会委員長、地区交通安全協力会会長、等等、肩書ばかりがやたらとふえて行くが、非力な自分に何程のことが出来るとも考えていない。ただ長い間世話になつた地域社会之恩がえしをしたい一念で日夜走り廻っている。

四 一日一日が人生のすべてであり、体を使い、頭を使うことが生命力をのばす秘訣つであると云われている。働ける限り働いて、悔のない人生にしたいものだと思つています。

電友会の皆様のますますのご健勝をお祈りしています。

- 一 西山正雄 六〇才 四四年(高松電話)
 二 健康状態 まあ普通、母と妻と三人暮らし。子供も無ければ勿論孫も無い。
 三 公社を退職してはや五年、平凡な日々を送って居ると一年の早いこと。毎日丸亀のお城を一周り散歩する(約四十分)雨が降っても歩くことにして居る。
 家では家族三人交替で、たばこの販売をして居るので別に退屈はしない。
 妻の友達が沢山居て代る々来訪されるので、一緒に大いに語り大いに笑って、毎日楽しくよいリクリエーションになって居る。
 春と秋には必ずハイキングと旅行をする事にして居ます。
 四 年金は公務員給与にスライドして四月一日改正にしていたきたい。
- 一 原田照男 六六才
 昭和四十年土庄報話局を最後に退職
 二 健康状態 マアマアというところ。
 現在妻と二人暮らし。
 三 趣味は俳句と骨とう、特に古銭に興味を持ち色々な種類の古銭を蒐め、一枚毎に分類し台帳に記録して楽しんでおります。展示会等があれば必ず出向き珍品をあさることを唯一の楽しみにしております。何か古いものはありませんか?
 又老妻が薬師如来を信仰し毎朝か、さずおまいりに行きますので、それに刺激され信仰と健康保持を兼ね毎日おまいりしております。今では参詣を日課としております。信仰は良いものですね!!

- 一 新居嘉隆 六六才 四十年 関西通信建設KK
 二 一年も前のことですが自動車に乗り道路横断中に自動車に追突され右腕骨折全身打撲で急救車の御世話になり入院二か月、今はすっかりよくなっていますが、医者には何分お年ですからねと言われ抵抗を感じています。家族は妻と二人暮らしで長男夫婦二人は松山在住で別居
 三 趣味は盆栽草花造り休日には庭の草抜きに追っています
 四 退職者の会の幹部の皆様のご努力により年金増額の恩恵にあづかり感謝しています。希望としては物価の安定になを一層のご努力をお願いが出来れば幸いです
- 庄野為三郎 八〇才 二四年
 健康状態はすこぶる上々で今日まで虫歯の一本もありません。妻が血圧とシンケイツーで医者に掛って居るが毎々老人の仕事だけは出来ている。
 日常生活は日本画家として毎日いそがしく働いている。徳島県美術協会日本画部顧問をしているので相当の仕事もある。
 昨年の年金改定で、高令者の格差は正が行なわれて、だいぶよくはなりましたが、四〇%あがったと言っても、元の年金額が低いので、まだ三万円にも足りない人が相当あります。せめて最低保障額を五万円くらいにしたらえたらと思います。
 私は幸にも手仕事があるから金の不自由は致しませんが自分等よりも古い人で困っている人もあります(年令でも八十五才)こんな

人にせめてもう少しよくして載ける様になればと思いい筆報告する次第です。

- 一 高井秋芳 六八才 三五年
 二 健康状態 病氣療養中
 三 医者通が日課になっています。
 四 なし
- 一 原 勝一 六三才 四三年退職後あつと云う間に五年の歳月が流れました。しかしこの間に親としての責任は殆んど終りましてあとはすきな通りの毎日を健康に過したい考えです。
 二 健康状況
 在職中は病氣の見本みたいな状況で色々な病になり、迷惑をかけて恐縮に思っていました。退職以後は病氣一つしないうで過して来られたのを感じています。
 退職の折四つの病氣継続の診療券も使用しなかったのので、三年目に返還しました。
 家族状況
 二年前まで夫婦二人でしたが、二年前から長男嫁孫二人、去年四月から三男も大学を出て徳島に移めたので、別棟をたて現在七人で賑に過しています。
 三 日常生活
 退職後どう過すかについて考えていましたが郷に入れば何とやらで、思いもよらない事が多いのを知りました。毎日天気なれば半日は畑仕事だけは続けて来ました。これが身体を今日まで持った事でしよう。午後は、夏―鮎、秋―菊、冬―菖、で過しております。

四 これからは元氣なうちに旅行をと思ひます。公社の保養所とか会館が早く私達も使用できたらと希望します。

一 四宮正之 六四才 四二年 四七年の春まで徳島市その近郷を敷地折衝や支払に回っていました。その節はいろいろお世話になり又よき経験になりました。その後身体都合上やめています。

二 糖尿ですが小康を得ています。子供は県外勤務と娘はすてにかたずき一人暮しですがもうなれました。

三 町内地域の協力や朝の散歩と菜園を少しして楽しみの一部としています。

四 医療費の支払方法については郵政の通病でも公社通病と同じように願いたいものです。

一 木村利一 六〇才 四十七年退職

日本電気松山営業所勤務

二 家族 妻、長女、三女と四人暮し、

次女は教員で勤務地に別居中

全員健康状態良好

三 趣味 テニス、囲碁、将棋

その中でテニスは歴は一番古く四十余年「馬鹿の一つ覚え」で今も続けてやっています。先日宝塚市で六〇才以上の全国大会が開催され出場しましたが北は北海道南は沖縄を始め韓国からも参加してその数四百余名に達しました。

最高年齢者は八十九才で元氣にプレーしている姿を見て六〇才位ではまだだと意を強くした次第です。囲碁将棋も「下手のよこ

好き」で時々先輩に教えて貰っています。

趣味の各グループをつくり定期的に集まり親交を深めることもよいことだと思います。四 諸先輩がよくやって下さいますので何も云うことはありません。

一 大元新平 六五才 四二年

私は現在身体障害者であるが、非常に元氣なので、電気通信共済会から、西条電報電話局区内の公衆電話室の清掃を請負っています。

二 妻も健康で働いており、長男夫婦、二男夫婦、三男も地元で居り、それぞれ働いています。二男夫婦は共に教師をしているので、孫を預っています。三才になる女の子でとても、元氣がよくて可愛いのですが、いたずらもするので少しも眠放しが出来ません。

私の健康法は、夜は早く寝ること、朝は早く起きて運動をすること。

山下武夫

私は昭和四一年五月退職ですから、もう退職して七ケ年になります。

電友会諸兄が各方面で働いておられるのに、私は平々凡々の毎日で、年中山歩きや四人の孫の処へ行ったり二月から薔の苔取り、つづいてつくし、わらび、ぜんまいを取って世話になった人々に送っております。

退職前娘からも言われ私自身も考えておりましたが、辞令をもらって三月に盲学校を訪ね点字奉仕を申し出ました。道具類一、五〇〇円で、今までに百余巻の童話集を点訳してお

ります。(点字は一二〇頁が一巻)

年齢の故か毎朝五時起床です。雨が降っても照っても山歩をしており、朝晩点訳か、昭和一二年頃から始めた駄句を書いたりしております。又近頃は一念発起て毎朝のテレビ体操、これは就床前にもやります。

最近共済会から仕事をたのまれて少しはお役に立たねばと思ってお引受した訳です。

この前小豆島巡りをしたとき猪谷さんと大屋敷さんに大変お世話になった事を心から感謝しています。もう一度小豆島をまた四国八十八ヶ所巡拝をと考えております。

諸先輩の御多幸を切望しております。

佐久間由夫 六二才 四四年

私の三月末電通共済会を定年退職しました。先輩のみなさまには特に一昨年来公社の広域時分制実施の際簡易時分計交付で絶大な協力いただき厚くお礼申し上げます。

さて共済会退職するに当り精密な健康診断を思い立ち三月二七日常医の西川医で胃のレントゲンをとったところ異常あり、更に改めて日赤で胃カメラをのむ、四月四日胃ガンと判明、翌五日日赤に入院、十一日胃の切開手術を受ける。経過よく五月十一日退院、自宅療養、私の場合早期発見でまだ体力もあり手術は順調であったが、退院後食欲の増進がなく一時弱りました。手術後二カ月の今日どうやら本来の体に向いつつあります。

このようなことで共済会退職のあいさつ状も出せず失礼しています。その間各位からの暖かい激励の言葉いただき感謝の念で一ぱいです。最近ガンで死亡される方が多いので早

期発見のため年一回の精密検査（専門医）をおすすめしてやみません。
それにしても胃を切る手術は簡単ですが後が大変でイヤですね。

これからの夏秋冬を大切に養生します。
お互に健康第一に努めましょう。
なお私の住所が松山市東本町四六―三九に変更しました為念。

一 鈴木健太郎 六六才 四一年退職

俳句

古都の涼 玉川 都夢

闇濃ゆき三千院や灯涼し

渡月橋風鈴売りの渡りくる

風鈴売り真昼の坂に影おとす

松笠風鈴の音に涼しく住み給ふ

風鈴や言葉の要らぬ対話もつ

藤原月香（彰）

お賽銭も清め遍路の旅仕度
般若心経あげて出発遍路バス

二 昨年本欄に投稿してからこの一年間変わったこともありせん。倅夫婦に孫と私達夫婦の五人ぐらしです、皆元気でやっていることが何よりと思っております。

三 この間まで自治会の役員をつとめておりましたが、老人会が結成され副会長を仰せつかったので、自治会のほうはお役ご免をねがって、老人会のほうのお世話をさせてもらっております。発足後、間もないためか案外行事が多くあります。

鐘二つ撞いて打ち初め岩屋寺

御朱印を白衣にうけて老遍路

遍路日記つけてはがきも書いて置く

河鹿 有井 一 硯

雨の日の紫陽花の毬いよ垂れ

梅雨のもの一日晴れて皆乾く

ゴキブリの智慧死の真似をしております

水掛けて拝む石仏滴れる

河鹿鳴き河原に深き霞かかる

佐久間 瀬 湖

赤松の技渡りゆく加賀の月

節電に五階へ歩き息白し

おらが春得たりと床ににらみ虎

節分や鬼にたたかれお念仏

一週間ほど日光、箱根、伊豆と旅行をして一昨日帰宅しましたが東京で体調をこわしたのか帰宅後もまだ疲れがとれません。

東京というところは老人には向かない土地のようです。

四 年金は上がるし保養所の利用ができるというまことにありがたいと思っておりますが、いかにせん狂乱物価を……
結極は弱者の泣言に終るのが落ちで希望のもてるような現世ではなさそうです。

たくましく生きよう梅の苗木買う

大野 峰 生

山頂の古刹に人呼ぶ新樹かな

大夏木頼もし茅屋うづくまる

ごきぶりを見据え受取る蠅叩き

新樹どち捧げる城跡の展望台

先づ咲くは「鞍馬天狗」てふ庭菖蒲

麦の秋 横山 蔵 峰

供出日マイクが告ぐる麦の秋

供出の人の減りゆく麦の秋

父の日と言いて閑なし麦の秋

贈られし酒に父の日知りにけり

白百合や床の掛軸仁智勇

短 歌

加太の淡島

藤 田 基 孝

霧の中の孝子^{きょうし}を越えて深日^{ふけ}の海の今し出でたる赤き日に逢ふ

夏の朝のすがしき磯をつたひ来て加太の淡島の鳥居をくぐる

淡島にゆかりをつなぐ文左衛門船の帆柱はみやしるに朽つ

しものやまひの平癒を祈る多きなかに良縁を願ふ絵馬の幾つか

のぞき見る暗さに馴れし堂の中悲願^{かたしる}の形代はあまた男根

四国電信電話事業史

公社発足二十年を記念して、当時をしのぶエピソードから現在までの公社の発展を数多く集録、豪華本にまとめました。

一冊 三、〇〇〇円 (郵送料実費)

電電公社職員録

四九年度四国通信局管内職員録 一、〇〇〇円

〃 全国電電公社職員録 一、三〇〇円

ご注文やお問合せは下記へどうぞ

電気通信共済会四国支部

松山市南持田町四〇

電話(〇八九九)一二一九五三一

香川営業所(〇八七八)一三九一九二七七

徳島 〃 (〇八八六)一五四一九四一一

高知 〃 (〇八八八)一七三一九二九一

編集部から

会員消息 募集

風のたよりということもあるが、活字になった知人のたよりは、また一入なつかしいものです。掲載の便宜上アンケートの形を次のようにしますが、型にとられず自由に、それぞれの持ち味を出してお書きください。但しなるべく多くの消息を載せたいので、字数は三〇〇字までをお願いします。

- 一 氏名、年令、退職年次、勤め先等。
- 二 健康状態、家族の状況等。
- 三 日常生活、趣味、その活動等
- 四 退職者としての希望、意見等。

趣味の作品 募集

みなさんの趣味の活動の中に生れた傑作をお寄せ下さい。

俳句、川柳 (五句以内)

短歌 (五首以内)

随筆、随想 (六〇〇字程度)

次号の特集テーマを「物価高をのりきる」とします。示唆、工夫、要望等いろいろあると思います。奮ってご投稿ください。

次号発行予定 十月一日
原稿締切 八月十日

編集後記

会報の発行が、しばらくとぎれていましたところ、続けて発行せよとの声が多いので、今後は定期的に発行していくことになりました。どうぞご援助願います。前にいただいた原稿が時期的に少しずれたのもてきまして、申しわけありません。悪しからずご諒承願います。

七夕投票の参議院選挙の連呼の声が、巷にかしましくなってきました。高物価の中で老後の生活安定の行方がどうなるのか、気にかかることです。次号の特集テーマにそれを取りあげました。ご意見をお寄せ願います。

電友会の事務所が、通信局の中に移転しました。付属庁舎の三階です。堀の内の樹々の見えるよい室です。どうぞお立寄ください。

連合会事務局担当が、七月一日毛利から鈴木清四郎氏に交替の予定です。いろいろお世話になりました。今後ともよろしくお願いいたします。

(毛利記)

四国電友会会報 第七号

昭和四九年七月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

〒790 松山市一番町四丁目

電話(〇八九九)三一八九八四

印刷 四国電話印刷株式会社